

# 長走風穴を訪ねて

「ナンブソウ」の花を見たことがありますか

リポーター 佐藤 功さん（有浦4丁目）



佐藤リポーター

市街地から北へ約十五km、国道七号沿いの矢立地区長走地内に長走風穴館と国指定天然記念物の長走風穴高山植物群落があります。

六月上旬のある日、高山植物の「ナンブソウ（南部草）」が三年ぶりに咲いたとの報に長走風穴を訪ねました。風穴館の渡辺次男さんに案内をしていただき、長走風穴以外では現在ほとんど見られなくなった貴重な植物である「ナンブソウ」を初めて見ることができて感激。以下長走風穴についてレポートします。

## 長走風穴館

平成七年、文化庁の天然記念物整備事業に芝谷地湿原とこの風穴が選ばれ、同八年三月から整備が始まり、同十年四月に完成オープンしました。

館内に入りますと、一階には風穴から冷気が吹き出る石の壁や、風穴の仕組みと利用、長走周辺の歴史、市の天然記念物などを紹介したパネルコーナーがあります。中二階には、風穴の四季や高山植物が生育する原因などを、レーザーディスクによる大型画面で分かりやすく説明してくれるミニシアターがあります。二階には、冷風を利用した高山植物が展示され、

屋外広場へと渡り廊下が続いています。

建物は秋田杉の香りがして、風穴についてのさまざまな資料が分かりやすく展示されているのが印象的でした。また、風穴館には説明員のかたがおり、気軽に質問に答えてくれます。



貴重なナンブソウの花

## 長走風穴高山植物群落

風穴は、国見山（標高四五三・九m）から崩落した石英安山岩がたい積した累石型風穴です。この風穴現象の原因は「地中の空気対流説」によると考えられています。この説では「夏は山頂部の岩石のすき間から外気を吸収し、冬期に結氷した氷を解かし、下方の岩石のすき間から冷気を吐き出す。また冬は下方の岩石のすき間から外気が入り、地中で温められて上昇し、山頂部の岩石のすき間から吹き出す」と説明されています。

高山植物群落が見られる地点は、標高が一六〇～一八〇mでありながら、外気温が三〇℃前後となる真夏であっても、五～六℃の冷気が吹き出しています。このため、周辺の植生とは異なり、標高一、〇〇〇m付近と同様の高山植物が二十種類ほど群生しています。風穴の高山植物は、氷河期の生き残り（残存植物）と考えられていますので、長走風穴は氷河期あるい



は、それ以前から存在していたものと考えられます。

## 高山植物の見ごろ

花はどんな花でも人の心を和やかにしてくれませんが、高山植物の花は格別なものがありません。長走風穴に群生しています二十数種類の中から代表的な植物の花期を挙げてみました。

春……チゴユリ、フデリンドウ  
初夏……コキンバイ、コケモモ、オオタカネバラ、ナンブソウ

夏……ヤナギラン、クルマユリ  
秋……エゾリンドウ

※花期は、その年の気温などにより異なることがあります。

## おわりに

来館者からは「施設が整備され大変良くなり感謝します」などの声が寄せられています。昨年は三万六千六百五十人が風穴館を訪れ、そのうち約半数が県外からのかたです。長走風穴は、自然の驚異を身近に体験できる貴重な資源です。マナーを守り、そのすばらしさを積極的にPRしたいと思えました。

## ◆長走風穴館

開館期間・4月1日～11月30日  
開館時間・9時30分～16時30分  
休館日・毎週月曜日  
※6、7、8月の休館日はなし  
入館料・無料

☎51-2005